

浜松市生活支援体制づくり協議体（第1層、市域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和4年8月31日（水）10時から12時まで
参加者	委員：8人(欠席1名) 事務局：2人 その他：4人（高齢者福祉課）
場 所	浜松市役所 8階 第5委員会室
内 容 (抜粋)	<p>※以下、生活支援コーディネーターを「SC」と表記する。</p> <p><b>■前回の振り返り</b></p> <p><b>(1)令和3年度 第1層協議体議事録について</b></p> <p>配布資料に基づき、第1層 SC から前回の協議体の状況等の説明を行った。</p> <p>【意見・質問など】</p> <p>特になし。</p> <p><b>■意見交換</b></p> <p><b>(1)令和4年度 第2層協議体の事業状況について</b></p> <p>配布資料に基づき、第2層 SC から各協議体の状況等の説明を行った。</p> <p>【意見・質問など】</p> <p>意見： 各地域において課題が出てきており、それが明確になってきていると感じる。それぞれの地域での優先順位が明確になり次第、それに取り組んでいくのが望ましいのではないかと考える。</p> <p>意見： 第2層 SC には、担当圏域を今後どう進めていくのかをしっかりと検討し、それに基づき計画的にアプローチをしていただきたいと考える。</p> <p>意見： （第1層 SC）地域課題としては、「移動・外出」と「買い物」というキーワードがほとんどの圏域で挙げられている。ただし、一言で「買い物」と言っても、買う場所がない、買える品目に偏りがある、荷物運搬が難しいなど様々な背景が見られる。関連して、第2層ではニーズ調査など、抽出された課題をより掘り下げているような状況であると感じる。なお、「移動・外出」については、公共交通機関に関する言及が多いと感じる。</p> <p>質問： キーワードとしても多く挙がっている担い手養成はどのように進めるのが望ましいか。</p> <p>回答： （第1層 SC）担い手については、リーダーがいない、担い手の負担を軽減したいなど、これも様々な背景があると思われる。ただし、第1層で行っている養成講座についてはマンネリ化しているという指摘もあり、担い手養成は第2層協議体だけでなく第1層でも検討していく必要があるのではないかと考える。</p> <p>意見： 浜松市には、第3層的に機能している地区社協がある。SC に求められる役割としては、担当圏域内の地区社協支援が重要ではないかと考える。</p> <p>住民生活に最も密着しているのが地区社協であり、家事支援サービスなどは地区社協で担当するのが望ましいのではないかと考える。その意味で、地区社協の活動状況には差があると思われるが、地区社協がうまく機能していないからといって、それを短絡的に第2層で実施してしまうのは、地域づくりとしては望まし</p>

くないのではないかと考える。第3層の共通課題を見つけ、第2層だからこそ実施できることに取り組んでいくことが重要ではないかと考える。また、その際にはエリア設定も意識しながら何に取り組むか検討していくことが重要ではないかと考える。

また、担い手養成についても、第2層や地区社協単位で実施するのが望ましい事柄と第1層で実施するのが望ましい事柄があると思われる。

例えば、第1層では、商工会議所等を巻き込みながら、社会参加を促していくための取り組みを全市的に実施し、各地域では地域密着型企业に対して実施するというやり方があると思われる。このように階層ごとの課題を明確にして、それぞれのやるべきことをどうやって行っていくか、整理が必要な時期に来ているのではないかと考える。

回答：（第1層 SC）担い手不足については、地区社協担当者からも課題として出てきている。ただ、そもそもの地区社協事業自体が十分に周知できていないのではないかと、周知方法を精査する必要があるのではないかとという声もあり、市域だけでなく、地域での取り組みも重要ではないかと考える。

意見： 担い手不足解消のためには、例えば家事支援サービスやサロンの担い手募集なら地区社協単位で、サロンの講師や、趣味・特技を活かしたボランティア募集ならそれに特化したボランティアバンク登録などを通して第2層単位で募集していく。併せて第1層では、退職者に対して社会参加に向けたアピールを大規模に行うなどの方法が考えられる。このように、各層が相互に連携しながら、効率的に実施することが重要ではないかと考える。

回答：（第1層 SC）趣味・特技を活かしたボランティアとは、「プロボノ」という形で実施している事例もある。このあたりは、第2層 SC とも相談しながら浜松市でどう展開できるか検討に努めたい。

質問： 買い物支援については、移動距離や手段という物理的な課題があるため、ネットスーパーの利用促進も一つの解決方法だと思われる。そのように、自宅で買い物できるような支援を検討している地区はあるか。

回答：（第2層 SC）南区では携帯販売会社に依頼して、シニアクラブの会員対象にインターネット活用講座を実施している地域がある。講座は無料でメニューも選択でき、出向いてももらえる。なお、買い物については、自宅で注文できる「おうちコープ」があるが、用紙への記載がかなり細かく難しいこと、また配達までに1週間ほど要するなどの問題もあり、移動スーパーの活用を進めている。移動スーパーについては、自宅近くまで来てくれるため見守りや閉じこもり防止にも繋がるというメリットがあると考えられる。

回答：（第1層 SC）他市の事例も含め、インターネット活用のための取り組みというと、携帯販売会社などを講師に招き Zoom や Line アプリなどの使い方の講座を行う場合が多く、買い物支援に踏み込んだ講座は実施されていないと思われる。

なお、移動スーパーとして杏林堂が実施する「とくし丸」の利用者と話をする

と、自分の目で見て買いたいという要望が多いと感じる。

意見： 自分で足を運んで買う物を確認したい気持ちは理解できるが、それも難しい人に対する支援として、ネットスーパーの利用支援も検討するのが望ましいのではないかと考える。

質問：（第1層 SC）買い物支援にあたって、様々な選択肢の中から個人が選択できることが重要であるという捉え方でよいか。

回答：そのような捉え方でよい。

意見： コロナでインターネット販売を利用する人が増え、杏林堂などはかなりシェアが増えた様子であるが、注文の際の確認事項が細かくて大変という声を多く聞く。そこを第1層として課題提起していくことも考えられる。また、そのようなネットスーパー利用に向けた支援を家事支援サービスのメニューとして実施することも考えられる。

ボランティアの登録については、浜松市社協にもボランティアバンクという登録制度があるため、既存の取り組みの活用も視野に検討していく必要があるのではないかと考える。また、市社協ではクラウドサービスを用いた仕組みを導入する構想もあり、地区センターをはじめ、関係者と協議しながら、効率的な仕組み構築に向けて協議を深めていきたいと考える。

意見： 移動販売は、安否確認や交流の場にもなっているようだが、地区によっては移動販売の実施も難しいところがある。そのような場合こそ、インターネット活用が有効だと思われる。また、長野県では買い物支援にドローンを活用しているところもある。山間部などの買い物が大変な地域こそ、最新のテクノロジーの導入を検討する必要があるのではないかと考える。

なお、移動手段が確保できないことで、買い物・通院・居場所が重なる形で課題として抽出されていると考える。また、新興住宅地ではこれまで住んでいた住民と新しく移ってきた住民との交流が途絶えており、関係が構築できていないことが課題となっている。担い手不足についても、定年の延長でこれまで生活支援サービスを担ってきた層も時間の確保が難しくなっている中で、担い手確保の仕組みづくりをどうしていくのかが、大きな課題だと感じている。

質問：（第1層 SC）第2層協議体の進捗状況について報告いただいたが、今挙がっているような課題の他に、難しさを感じていることなど共有事項はあるか。

回答：（第2層 SC）特になし。

## ■協議事項

### (1) 令和4年度 第1層協議体の事業状況について

配布資料に基づき、第1層 SC から令和4年度の事業状況について説明を行った。

#### 【意見・質問など】

意見： 高齢者の移動手段については、現状として縦に伸びるバスはあるが循環するバスがなく、一方でバス券・タクシー券がなくなって困っているという状況が見ら

れる。そのため、浜松市における移動手段について考えると、この間に無くなっていったものが多いという印象を強く感じる。

住民主体サービスによる取り組みも重要であるが、高齢者が担い手の中心であることを差し引いても安全面の配慮は必要ではないかと考える。

意見： 通院や買い物支援を目的とした住民主体の外出支援サービスについては、公共交通機関を補完するようなインフラとして期待するのは厳しいのではないかと考える。あくまでも地域の助け合い活動の一環であると捉える必要があるのではないかと考える。

意見： (浜松市高齢者福祉課)公共交通機関については、利用状況などの状況に応じてルールを決め、段階的に今の状況となっている。その意味では、市としても対策を検討しているが、これ以上公共交通機関が減らないようにしていくのが精一杯ではないかと思われる。その意味では、近距離の移動、隣町や町内の買い物や通院を目的とした移動については、住民主体による外出支援サービスが重要になるのではないかと考える。

回答： (第1層 SC) 住民主体の外出支援サービスは積志、北浜中地区でしており、笠井地区については今後実施に向けた検討の進展が見込まれると聞いている。他地区においても、先行事例として他地域の実施団体を講師に呼んだり、県の相談窓口を使ったりしながら情報収集している状況である。

一方で、公共交通で外出手段の確保をすべて担うというのは難しいということから、住民主体サービスに対して関係機関からの過度な期待が見られると感じる。しかし、住民主体サービスはあくまでも助け合い活動の一環であり、道路運送法等の制限も大きく、車両保険の確保の課題も見られる。そのあたりを踏まえ、浜松市の交通手段の確保については、公共交通政策として出来ることと住民主体サービスとして出来ることを整理しながら検討していくことが重要ではないかと考える。

意見： シニアクラブでは、スマホ講習を実施しているが、講習を受けた人が講師となって広めていくというやり方をとっている。また、雄踏には雄踏フレンドというシステムがあり、雄踏、舞阪、篠原と地域は限られるものの、介護保険対象者であれば送迎や通院、買い物支援を頼むことができる。しかし、移動支援サービスは、車の管理や運転手の手配、保険のことを考えるとなかなか広がりにくいのではないかと考える。

回答： (第1層 SC) 今回、一定のテーマに沿って資料をまとめたが、別の方法でまとめれば見えてくるものも変わるのではないかと感じる。ただ、まとめていて、先ほど意見交換の場でも指摘があった通り、①当事業をどう広く周知するか、②担い手確保にあたって様々な主体をどう巻き込んでいくか、またそのターゲット層をどこに設定するのが重要ではないかと考える。

また、第2層協議体は、おおよそ地域課題が抽出され、さらに具体的な取り組みの検討に向けて掘り下げ分析していく状況にあるため、今後、関係機関や団体

との連携もなされていくと思われる。これまでは、生活支援フォーラムや勉強会などを開催し、先進事例やスキルアップを図ってきたが、今後そのような第2層協議体の活動支援にあたり、どのような取り組みが考えられるか検討することも重要ではないかと考える。

意見： 第3層が浜松にはあるということで、第2層・第1層・行政という垂直方向に加えて、水平方向の取り組みの展開を考えていくという意味で、NPO や民間企業をどう巻き込んでいくかが第1層の課題・役割ではないかと考える。

地域によっては、公共交通機関と住民互助型の間にNPO方式の共助型移動サービスが存在している。それを社協が協賛する企業やNPOを育てながら、かつ社協の地区センターも関わりながら作り上げていく時期に来ているのではないかとと思われる。「家事支援サービスや互助、公共交通では限界になっている」としたら、その隙間を市社協の機能を活用して水平方向の取り組みを展開できないかと考える。重要なプロジェクトとして検討いただきたいと考える。

**(2) その他：特になし。**

**■報告・連絡事項：〈質問・意見〉特になし。**

**(1) 住民主体サービスの状況について**

配布資料に基づき、第1層SCから住民主体サービスの状況について報告した。

**(2) 令和4年度以降の生活支援ボランティア養成講座について**

配布資料に基づき、第1層SCから今後の生活支援ボランティア養成講座について報告した。

**(3) コミュニティ・ソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターの合同研修について**

配布資料に基づき、第1層SCから令和4年度コミュニティ・ソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターの合同研修について説明した。

**(4) その他**

配布資料に基づき、第1層SCから次回の第1層協議体のスケジュールについて周知した。

今後の見通し等

地域課題として「移動・外出」と「買い物」というキーワードがほとんどの圏域で挙げられている。この間の第1層協議体において、民間企業等との連携、第1層から第3層の各層における相互の連携の重要性についても挙げられているが、それらとも関連するキーワードと言える。

その意味で、第1層協議体についても、今後の協議テーマとして、担い手の確保や買い物支援などに対する取り組みの検討していくにあたって、民間企業等の参加促進などにも留意していきたい。また、第1層・第2層・第3層的な機能を果たす地区社協単位などそれぞれの階層やエリアを意識しながら、より有効な実施方法について検討していきたい。